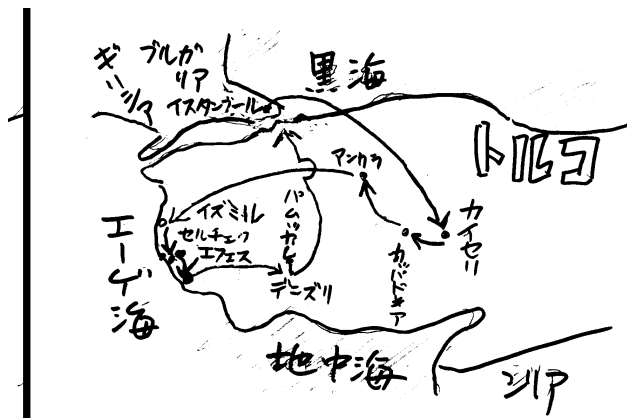


トルコ旅行報告

M 夫妻

期間 2005年4月28日～5月8日9泊11日



目的 世界遺産を見ること。去年チュニジアに行ってからイスラム圏の摩訶不思議な魅力にハマってしまった。トルコは体力的にキツそうなので、まだ50代のうちにチャレンジ！



費用 ドル、ユーロ、トルコリラ、円と4種類の通貨を使ったので円に統一しました。全部2人分です。

A・航空運賃 (JTBで購入)		
成田～パリ往復(エールフランス)		314,000
トルコ国内3フライト(トルコ航空)		59,180
A	小計	373,180

B・交通費		
成田エクスプレス(往復)		12,270
パリ市内地下鉄(往復)		3,235
カッパドキア～アンカラ(バス)		2,618
バス(空港送迎、他)		3,283
タクシー(4回乗車)		10,195
イスタンブール路面電車(4回乗車)		521
B	小計	32,122

C・宿泊費 (一泊朝食付)		
4月29,30日 カッパドキア(ホテル2泊)		20,700
5月1日 アンカラ (ホテル)		6,210
5月2日 イズミール (ホテル)		8,280
5月3日 セルチュク (ペンション)		1,932
5月4日 デニズリ (ホテル)		6,900
5月5日 イスタンブール (空港送迎付き・ペンション)		6,900
5月6日 イスタンブール(ホテル)		5,382
C	小計	56,304

D・観光ツアー、美術館見学		
カッパドキア気球ツアー		56,580
カッパドキア観光名所ツアー(バス)		8280
イスタンブール・ディナーショー (民族舞踊)		11,000
ボスボラス海峡クルーズ		6,210
トプカピ宮殿(ハーレム含む)		8,832
他ミュージアム入場、見学		5,104
D	小計	96,006

E・食事		37,943
F・みやげ、ガイドブック、AIU 保険		18,560

合計 A+B+C+D+E+F=¥614,415
(一人当たり307,208円)

トルコ旅行日程表

{2005-4-28(木)夜から 2005-5-8(日)まで}

2005年4月28日(木) 21時55分 成田発
エールフランス航空277便(AF277)
29日(金) 4時15分 パリ(シャルルドゴール)空港着
10時05分 パリ(シャルルドゴール)空港発
エールフランス航空1590便(AF1590)
14時25分 イスタンブール(ATATURK)空港着
17時25分 イスタンブール(ATATURK)空港発 ト
ルコ航空264便(TK264)
18時50分 カイセリ空港着
ホテルからの出迎えの車
(有料36ユーロ/2名)で100km
先の下記の場所へ移動

HOTEL KELEBEK 2泊(ギョレメ村)
TEL 90-384-271-2531

5月1日(日)ギョレメ GOEREME 村から
AM11時発の直通の高速バスで途中2カ所で
合計1時間休憩停車して5時間後のPM4時
にアンカラ ANKARA 市のオトガル(バス
ターミナル)着後タクシーでホテルへ移動

HOTEL ALMER 1泊
TEL 90-312-309-0435
5月2日(月)19時30分アンカラ ANKARA
(ESENBOGA)空港発 トルコ航空386便(TK386)
20時40分 イズミール IZMIR
(ADNAN MENDE)空港着
HOTEL ISMIRA 1泊
TEL 90-232-445-6060

5月3日(火) 11時30分 イズミール駅前のバ
ス会社前から連絡ミニバスでオトガル(バスターミ
ナル)で高速バスに乗り換え後12時45分にエフ
ェス遺跡近くのセルチェック村着
GEST HOUSE DREAMS 1泊
TEL 90-232-892-2278

5月4日(水) 10時 ペンション前のオトガル
(バスターミナル)発
12時にデニズリ市のオトガル着後
目の前のホテルにチェックインして身軽になっ
てから昼食してバスに30分くらい乗って2時40分
ごろ、パムッカレ着。観光後丘の上のヒエラポリス
遺跡発の最終バスで6時に出発して、デニズリ市に
6時40分にもどる。

HOTEL LAODIKYA 1泊
TEL 90-258-265-1506

5月5日(木) 10時 デニズリ空港発
トルコ航空237便(TK237)の出発の
写真



11時10分 イスタンブール空港着
出迎えの車でペンション着
PENSION COSHKUN(ジョシュクン) 1泊
TEL 90-212-5269-854
5月6日(金) HOTEL TURBAN 1泊
TEL 90-212-520-7221
5月7日(土) 18時45分発
イスタンブール(ATATURK)空港発
エールフランス航空1791便(AF1791)
21時30分 パリ(シャルルドゴール)空港着
23時25分 パリ(シャルルドゴール)空港発
5月8日(日) 18時 成田空港着

各地の印象

パリ市内

4月29日早朝シャルルドゴール空港着。イスタンブール乗り換えに5時間ほどあるので、地下鉄で市内に出てノートルダム寺院からパリ市庁舎まで歩きました。折りしも2012年オリンピック開催キャンペーンのデコレーションが華やかに飾りつけられ、観光客達の目を引いていました。残念ながらロンドンに決まったので、この写真は貴重なものです。



途中のリアル駅近くのおしゃれなカフェに入ったのはいいけれど、トイレに行ったM1は[Messieurs]と書いてあった方に入り、後で「Dames」の方が女性用と知って「誰もいなくて良かったあ〜」

カッパドキア

4月29日イスタンブール経由で夜8時半にカイセリ空港着。ここでもトイレ問題発生！たった一つしかない女性用は和式風・・・は慣れているとして、終了後の水洗方法がどこにあるかさっぱり判らない！上か下か、横かボタンか？あせて足元を見ると、小さな蛇口の下に子供が砂遊びに使うようなバケツがチョココンと置いてある。まさか？とは思いつつ、その小さなバケツで水を流す。大の場合はどうなる事やら？イスラム圏のトイレが和式なのは知っ

ていたが、ミニ・バケツ方式は始めてなので面食らった。外国人観光客の多い空港で、この方式では先が心配。

けれど、出迎えの車で夜10時到着したカッパドキアのホテルは、ちょっとクラシカルな洞窟風に仕上げながら洋式トイレ、バスタブ付きの豪華2部屋で、ほっとしました。

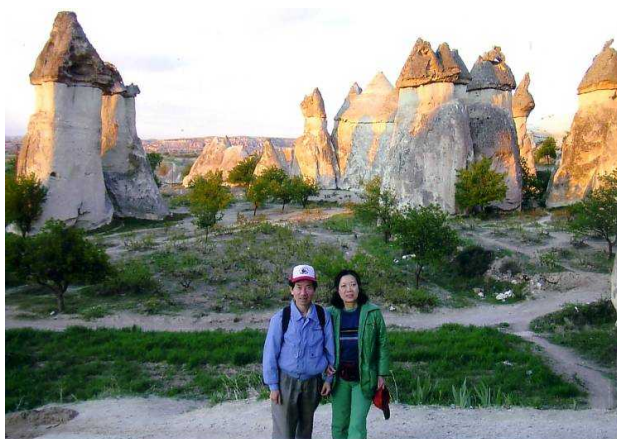
翌日4月30日はなんと雪！

お目当ての気球ツアーが飛ばないので、急きょカッパドキア観光ツアーに変更して、8人乗りのマイクロバスで出発！しかし見晴らしの良いはずの展望台も、みぞれ交じりの氷雨に、記念写真撮るシャッターの指もかじかむ有様で、早々に車内に駆け込む。

カイマクリの地下都市見学は、吹雪の外よりはまだまだ良かったけど、狭い通路に体の大きな白人観光客が押し合いへし合いの大混雑で酸欠になりそうだった。迷路の所々には空気孔や井戸、礼拝堂まである。地下都市と言うものの、這いつくばって通る道もあり、何万人もがこんな狭い暗い地下に隠れ住んでいた忍耐に驚嘆する。

ウフララ渓谷に昼、着いた頃には薄日のさす天気になり、急な階段を下りて途中キリスト教会跡を見学し、兩岸にそそりたつ洞窟住居を見ながら1時間ほど歩く。しかしハイキングとは大嘘で、雨が降ったばかりの水溜りを飛び越え、木の根につまずき岩にしがみつき、多分ツアー中の最高年齢じゃないかと自覚しつつ、息せき切って若者集団に追いつくのに必死でした。

2時ごろたどり着いた川辺のレストランで遅い昼食をとり、キャラバンサライ（商人館）を回る頃には晴れて暑くなり、夕方6時半にお目当てのキノコ岩についた時は、美しいバラ色の夕陽が奇岩群を染める時でした。まるでディズニーアニメの「不思議の国のアリス」の世界に紛れ込んだように、キノコ帽子の岩達が「良く来たね」と遠路の客を歓迎しているようなファンタジク気分でした。



翌5月1日朝4時半に起きると天気は曇り。気球が飛ぶか飛ばないか、やきもきしながら迎えの車に乗って、6時半に近郊の野原に着く。既にあちこちでバルーンを膨らませるガスバーナーの音が、ポーポーと響き渡る。思った以上に人手のいる乗り物で、5,6人の屈強な男性が準備に走り回っている。うながされてカゴ(本当にバスケット)に入り、やっと念願の気球ツアーに出発！パイロットはタレントの川平慈英ソックリのお兄さん、日本人高校生2人、ドイツ人家族連れ4人我々2人で計9人乗り。思ったより上空は寒くも怖くもなく、むしろ快適を言えるほど気分がいい！

飛行機のようにガソリンを使って無理矢理飛び上がるのではなく、気流に乗って鳥のように自然のまま無理ない飛行は初めての体験に感動する。

ガラス窓越しでない、眼下に広がるトルコの大地、次々とパノラマのように姿を見せるカッパドキアの奇岩群！よく見回すとカラフルな気球達が下にも上にもフワフワと舞い、上空の気球と地上の台地とが合間って、壮大な風景を作り上げている！

買ったばかりの携帯カメラを落とさないようにビデオ映像を撮っているうちに50分終了。「どうやって帰るの？」と川平兄ちゃんに聞いたら「風まかせ」と一言。そのとおり、ガスバーナーの炎を弱くして高度を下げ、崖から低地に降下する時は「全員伏せ！」でカゴ中にしゃがみこむ。草地がクッションとなって軽いショックで着地成功！しかしそこからが大変。一番体重の

ありそうなドイツ人オジサンを先に降ろしてロープを木に結ばせ、M2はバーナー調整役、M1はロープ引っ張り役と、乗客が一丸となってバルーンと格闘するなんて、聞いてなかったヨ！頼りない日本人少年達もパイロットに怒鳴られながら、ワラワラと草むらを走ってロープをヒッパる。一度膨らんだバルーンの力は予想外に強く、カゴが横倒しになって草むらに放り出されてしまった。そうこうしているうちに、ツアー会社の車が来て何人かでバタバタとバルーンを片付け、興奮状態の客にシャンパンを振舞い、乗船記念証を一人一人手渡してくれる。まずは空中散歩が無事で「乾杯！」



アンカラ (5月2日)

トルコの中央に位置する首都アンカラは、古代と現代がケンカして住んでいるような、雑然とした印象の都市です。

具体的には車の交通量が多く、道路が広い割には横断歩道がほとんどないので、渡る時は地元の人々の後ろについて行かないと、いつまでたっても渡れません。面白かったのはちょうど正午だったので、市内中のスピ-カーが一斉にコーランをがなりたて、見晴台で聞いているとそれぞれがテンデにちがう文句？なので、お祈りする人達は迷わず聞き分けるのか？不思議な光景でした。

アナトリア文明博物館も、空港行きバス発着所も迷いに迷い、道を尋ねると皆が違うことを言うので無駄に時間をくったのには閉口しました。ローマの浴場跡も入れなかったし、アンカラ城塞も閑散としていました。でも二人でお

腹いっぱい食べて 950 円の旨いレストランに当たったのは幸いでした。

イズミール (5月3日)

アンカラから空路1時間半のトルコで3番目の都市は、日差しがカッと照りつけるエーゲ海の世界的リゾート地です。

暑い中、エンエンと人に聞いて探し当てたアゴラ遺跡は修復工事中で、ビル建設現場みたいな味気なさでした。帰り道、迷い込んだ裏路地に小さなイスラム商店が軒を並べ、青々とした緑のツタが日陰を作っている光景は日本の古い商店街の感じでした。

エフェス

ここへ来るのがトルコ旅行目的の一つでした。

12年前に友人とギリシア旅行した時に、ロードス島から対岸のトルコに渡ったのですが、バス時間が合わなくて断念した心残りの地でした。

入場料は1800円と高かったですが、期待にたがわぬ壮大なローマ遺跡でした。



2000年以上前の建築物が風雪に耐え、自分の目の前に足元にしっかりと建っている！ここでアントニウスとクレオパトラが出会ったというロマンスも信じたくなるほど、かつては繁栄を誇った壮麗な都市国家だったのが想像できます。

世界各地からの観光客がゾロゾロ歩いているのですが、ちょっと脇に入ると人気のない草むらが広がり、まるで恐竜の化石のように白く立ち並ぶ列柱の間を吹き渡る風の音がビョウビョウと響きます。2000年の歴史が話しかけてくるような、何とも言えない寂寥感を味わいました。

ペンションのオーナーが車で送迎してくれたので、たっぷり3時間も心行くまで見学でき、夕方には放牧の羊さん達の「メエ～」と鳴き声に送られて帰途に着きました。

セルチュク

エフェス遺跡に近い小さな町ながら、鉄道駅(1日3本)やバスターミナルがあるので観光客の拠点となっています。徒歩圏内に中世ヨハネ教会跡や、遺跡まであり、町のメインストリートの中にデンとそびえるローマ時代の水道橋は、今ではコウノトリの巣作りの拠点です。

夕暮れ方、町のレストランで魚料理を食べていたら、野良猫がテーブル下でトルコ語で？なにかを主張し、我々が日本語しかわからないので無視すると？フギャーと悪態について非友好的でした。

パムッカレ・デニズリ

世界遺産の石灰棚は、白い段々畑に水がたまったような光景でした。入場料300円払って靴をぬいで裸足になってソロリソロリと登るのですが、足裏の痛い事！カンカン照りの暑さと足の痛さをガマンして登ること30分。やっと見晴らしの良い中腹まで来ると、大胆な白人女性達はグラマーなビキニ姿で水溜りのような温泉プールに浸かり、我々はせめて足湯程度。



一般のツークルーズ船はほとんど昼頃には出てしまい、港で午後 2 時頃ウロウロ歩いていた我々に「ボスポラス！」と若いのが声をかけてきました。カモネギ夫婦が興味を示すと、携帯電話の計算機能をふりがざして値段交渉の末、2 人で 4580 円で乗船決定！

漁船を改造したようなガタピン中古船だったけど、念願のアジアとヨーロッパの架け橋が快晴のクルーズで見られて大満足でした。

b トプカピ宮殿 (5 月 6,7 日)

昼 2 時頃行ったら長蛇の列にあきらめて、翌朝 9 時から並んだら入れました。但しハ - レムは別料金で、入場者数限定の時間制なので、要注意。

2000 円近い入場料を払っても価値のある宝物は、映画「トプカピ」にも出てきた宝剣や、世界最大のエメラルド、スプーン大のダイヤモンド！黄金の椅子等、目もくらむばかりの豪華絢爛さに息も止まるほどでした。

それはそれとして、グランバザールで 3160 円で買ったターコイズ(誕生石)の指輪が、私にとっては大切なトルコの思い出の宝です。

それにしても一歩外は厳格なイスラム世界が嘘のような、開けっぴろげ観光地でした。

さらに上に登ったところに広がるのがローマ時代のヒエラポリス遺跡。ここにも 1 万人規模の円形闘技場がデーンとそびえたっていました。

イスタンブール

a ボスポラスクルーズ(5 月 5 日)



トルコはオジサンが面白い！

A アンカラおじさん

M2が「中華料理が食べたい！」とワガママを言い出して、夕方の雑踏の中をさまよう事1時間！

考えあぐねて地図を買った本屋のオジサンに「チャイニーズレストランが近くにあるか？」と尋ねたら、携帯電話でアチコチ調べてくれて、店を放り出してバス停留所まで連れて行ってくれました。

バスの運転手に私達の降りる場所まで指示してくれて、あまりの親切さに感激して、別れの挨拶はトルコ式に抱き合って「サオルン・ありがとう！」

B ギョレメおじさん

アンカラ行きの長距離バスに乗る時「サラバジャ〜」と日本語で手を振ってくれたオトガル切符売り係りのおじさん。

C エフェスおじさん

セルチェクの町を行き過ぎてから突然、道路の真ん中で降ろされて、カンカン照りの中を仕方なく町まで歩くハプニングがありました。

途中でレストランかと思って入ったら絨毯屋で、なんと、日本語のできる恰幅のいい紳士が現れて、今夜泊るペンションに電話して迎える車を呼んでくれたのは地獄に仏の思いでした。

日本の総領事館に勤めていたというおじさんは、イタリア映画の脇役みたいなシブーイ紳士でした。

D セルチェクのおじさん

ペンションのオーナーで、エフェス遺跡の送迎をしてくれたのはいいけれど、夕方お茶を飲んで行けと進められて、入ったらオジサンの経営する絨毯屋でした。

「日本の家は狭いから買わないよ」と断わると「日本用に小さいのもあるよ」と商品PRをひとくさり話すが、私達が買わないと言い切ると手にしたビデオ機能付きの携帯電話に興味を持って「それと絨毯と交換しよう」と言い出したのには閉口しました。もちろん断りました。



まるで召使のような使用人にお茶を運ばせ、どこで覚えたのか「サイタマ、フカヤ〜」と口癖のように歌ってトボけたオジサン(本名スータンさん)でした。

それはそれとして、グランバザールで3160円で買ったターコイズ(誕生石)の指輪が、私にとっては大切なトルコの思い出の宝です。